

6. 研究発表協力

本全国調査より得られたデータはわが国の造血細胞移植を進展させるために有効利用されなければならない。これまでも全国データは多くの研究者に提供されてきたが、平成10年6月26日に全国集計データ管理委員会は「日本造血細胞移植学会全国集計データ委員会規約」および「データ利用に関する細則」を定め、適正なデータ提供手続きを明らかとした。

このデータを利用するには、会長講演を除き、後に示す利用申請書の提出が必要となる。提出された利用申請書はデータ管理委員会で審査され、利用条件に合致すると判断された場合にデータの利用が許可される。利用条件には、「利用についての遵守事項」が確実に遵守される申請者であることのほか、臨床研究者としての資質を十分有すること、この全国調査に多くの貢献があったことなどが決められている。提供されるデータは、氏名や報告施設等個人を識別できるデータを削除し、コード表がなければ判明できないように加工したものである。これまで協力した成人での移植に関する研究発表は、会長講演を含めて以下に示す60件である。

また、1998年度より論文作成のためのワーキンググループがデータ管理委員会の承認のもと発足した。現在までに、8つのプロジェクトが完了し、2つのプロジェクトが進行中である。

なお、平成16年度のデータ管理委員会委員は、会長の谷本光音先生、委員長の土田昌宏先生、小児科領域の委員として東英一先生、加藤剛二先生、小池健一先生、土田昌宏先生、麦島秀雄先生、内科領域の委員として権藤久司先生、高橋聡先生、田中淳司先生、谷本光音先生、吉田喬先生（アイウエオ順）である

利用承認日	発表者および発表学会等
1) 会長講演	神奈川県立こども医療センター 長尾 大先生 第16回 日本骨髓移植研究会（平成5年12月18日） 「会長講演」 「わが国における造血幹細胞移植の全国集計」 今日の移植Vol 7 . No.2 .（平成6年3月）
2) 会長講演	大阪府赤十字血液センター 柴田弘俊先生 第17回 日本骨髓移植研究会（平成6年12月12日） 「会長講演」
3) 平成6年12月26日	東京大学医科学研究所 浅野茂隆先生 厚生省特発性造血障害調査研究班 第2回班会議（平成7年1月26日） 「骨髓移植分科会長報告」
4) 平成7年 2月21日	兵庫医科大学第二内科 金丸昭久先生 第24回 日本医学会総会（平成7年4月8日） 「難治性貧血の骨髓移植療法」
5) 平成7年 2月21日	名古屋第一赤十字病院内科 南 三郎先生 第24回 日本医学会総会（平成7年4月8日） 「成人領域における造血幹細胞移植の適応と成績」
6) 平成7年 9月21日	名古屋大学第一内科 谷本光音先生 厚生省がん研究「非血縁者間移植を中心とした同種造血幹細胞移植によるがん根治療法のシステムの確立と普及に関する研究」班 7年度第2回班会議（平成7年11月11日） 「臨床データから見たCMLのGVL効果についての考察」
7) 会長講演	東京大学医科学研究所 浅野茂隆先生 第18回 日本骨髓移植研究会（平成7年12月21日） 「会長講演」
8) 平成8年 2月 1日	慶応義塾大学医学部血液内科 岡本真一郎先生 第58回 日本血液学会（平成8年4月18日） シンポジウム 「Registry dataからみた骨髓移植療法の適応と限界」
9) 平成8年 3月18日	名鉄病院 森島泰雄先生 第58回 日本血液学会（平成8年4月18日） シンポジウム 「第1寛解期における薬物療法か骨髓移植療法の選択:matched-pair analysisから 1)成人急性骨髄性白血病」
10) 会長講演	岡山大学医学部第2内科 原田実根先生 第19回 日本造血細胞移植学会（平成8年12月19日） 「会長講演」
11) 平成9年 1月14日	愛知県がんセンター研究所疫学部 浜島信之先生 「癌と化学療法」への投稿（24巻：1303-1310, 1997） 「区間打ち切り例を含むデータでのノンパラメトリックな生存曲線推定」
12) 平成9年 1月30日	財団法人血液製剤調査機構調査課 赤澤 修先生 厚生科学研究「血液製剤の使用動向」研究班 第2回班会議（平成9年3月7日）
13) 平成9年 4月 8日	慶応義塾大学医学部血液内科 岡本真一郎先生 Korean Society of Hematopoietic Stem Cell Transplantation : Spring Symposium （平成9年 5月31日）

-
- 14) 平成9年 6月19日 名古屋第一赤十字病院内科 浜口元洋先生
第39回日本臨床血液学会 シンポジウム4 (平成9年10月27-29日)
「公的骨髄バンクの成績と血縁者間骨髄移植の比較」
- 15) 平成9年 7月11日 愛知県厚生農業協同組合連合会昭和病院 森下剛久先生
- 16) 平成9年 8月25日 日本造血細胞移植学会ガイドライン委員会 資料作成のため
愛知県がんセンター病院血液化学療法部 森島泰雄先生
第56回日本癌学会 シンポジウム12 (平成9年9月27日)
「造血移植療法の適応と限界 - 化学療法との比較 - 」
- 17) 平成9年11月 6日 慶応義塾大学医学部血液内科 岡本真一郎先生
第2回 Japan-Korea BMT Symposium (平成9年11月22日)
- 18) 平成9年11月 7日 兵庫医科大学第2内科 武元良整先生
厚生省がん研究「非血縁者間移植を中心とした同種造血幹細胞移植によるがん根治療法のシステムの確立と普及に関する研究」班 平成10年度第1回班会議
「死亡例での肝機能障害の頻度(仮題)」
- 19) 会長講演 慶応義塾大学医学部内科学 池田康夫先生
第20回 日本造血細胞移植学会 (平成9年12月18-19日) 「会長講演」
- 20) 平成10年 4月 3日 山田赤十字病院内科 玉木茂久先生
高齢CML患者への移植適応の判断のための資料提供
- 21) 平成10年10月 6日 岡山大学医学部第2内科 原田実根先生
第20回日本臨床血液学会総会 (平成10年11月11-13日)
- 22) 平成10年10月30日 京都府立医科大学第2内科 島崎千尋先生
第61回 日本血液学会 (平成10年4月19-21日)
- 23) 平成10年11月13日 名鉄病院血液内科 佐尾 浩先生
厚生省がん研究「非血縁者間の同種血液幹細胞移植による悪性腫瘍の治癒率向上に関する研究」班 平成10年度班会議 (平成10年11月21日)
- 24) 平成10年11月20日 都立駒込病院内科 秋山秀樹先生
第21回日本造血細胞移植学会 (平成10年12月19日)
- 25) 平成10年11月20日 慶応義塾大学医学部血液内科 岡本真一郎先生
第21回日本造血細胞移植学会 (平成10年12月19日)
「白血病における同種骨髄移植の適応 1. Introduction」
- 26) 会長講演 愛知県がんセンター病院血液化学療法部 森島泰雄先生
第21回 日本造血細胞移植学会 (平成10年12月18-19日) 「会長講演」
- 27) 平成10年12月 3日 長崎大学医学部原研内科 宮崎泰司先生
CLL症例の移植適応の参考資料として
- 28) 平成10年12月16日 広島赤十字原爆病院内科 土肥博雄先生
依頼原稿作成のため (メディチナ1999年4月号)
- 29) 平成11年 2月23日 長崎大学医学部原研内科 宮崎泰司先生
Ninth International Conference on Human Retrovirology (平成11年4月5-9日)
「Hematopoietic stem cell transplantation for adult T-cell leukemia/lymphoma」
- 30) 平成11年 4月26日 大阪大学医学部分子病態内科学 相馬俊裕先生
高齢者同種骨髄移植時の患者および家族に対する説明資料として
- 31) 平成11年10月21日 兵庫医科大学第2内科 高塚広行先生、武元良整先生
厚生省がん研究「非血縁者間の同種血液幹細胞移植による悪性腫瘍の治癒率向上に関する研究」班 平成11年度班会議 (平成11年11月13日)
- 32) 平成11年 7月 9日 大阪大学医学部第3内科 小川啓恭先生
厚生科学研究「造血細胞移植と免疫応答に関する研究」班会議 (平成11年7月16日)
- 33) 平成11年 8月25日 慶応義塾大学医学部血液内科 岡本真一郎先生
第41回日本臨床血液学会総会 (平成11年10月15日) シンポジウム
「慢性骨髄性白血病、分子理論からみた治療戦略、CMLの造血幹細胞移植」
- 34) 平成11年 9月24日 金沢大学医学部附属病院輸血部 塩原信太郎先生
第41回日本臨床血液学会総会 (平成11年10月15日) シンポジウム
「同種骨髄移植後の再発CMLに対するDLT療法」
- 35) 平成11年10月28日 岡山大学医学部第2内科 竹中克斗先生、原田実根先生
第22回 日本造血細胞移植学会 (平成11年12月16-17日)
-

-
- 36) 会長講演 広島赤十字原爆病院内科 土肥博雄先生
第22回 日本造血細胞移植学会 (平成11年12月16-17日) 「会長講演」
- 37) 平成12年 2月 8日 兵庫医科大学第2内科 岡本隆弘千世
厚生省がん研究 「非血縁者間の同種血液幹細胞移植による悪性腫瘍の治癒率向上に関する研究」班 平成12年度班会議 (平成12年6月24日)
- 38) 平成12年 2月22日 大阪大学大学院医学研究科分子病態内科学 小川啓恭先生
厚生科学研究「造血細胞移植と免疫応答に関する研究」班 (平成12年2月19日)
- 39) 平成12年 3月13日 大阪大学大学院医学研究科分子病態内科学 小川啓恭先生
厚生科学研究「造血細胞移植と免疫応答に関する研究」班報告書
- 40) 平成12年 7月24日 慶応大学医学部血液内科 岡本真一郎先生
NMDP年次総会 (平成12年9月24日)
- 41) 平成12年 8月25日 金沢大学医学部輸血部 塩原信太郎先生
第42回臨床血液学会総会 教育講演 (平成12年11月8-10日)
- 42) 平成12年 9月29日 群馬県済世会前橋病院血液内科 佐倉徹先生
第42回臨床血液学会総会 (平成12年11月8-10日) シンポジウム
「成人AMLに対する骨髄移植両方の適応と限界」
- 43) 平成12年10月15日 大阪府立成人病センター 平岡諒先生
Asia Pacific BMT Group Meeting (平成12年11月4日)
- 44) 会長講演 京都大学小児科 中畑龍俊先生
第23回造血細胞移植学会総会 会長講演 (平成12年12月8-9日)
- 45) 平成13年 1月15日 慶応大学医学部血液内科 岡本真一郎先生
厚生科学研究「ヒトゲノム再生医療等研究」合同公開シンポジウム (平成13年2月10日)
- 46) 平成13年 2月27日 大阪府立成人病センター 正岡徹先生
L-PAM注 健康保険認定申請参考資料
- 47) 平成13年 2月27日 京都大学血液病態学 内山卓先生
第63回日本血液学会総会 宿題講演 (平成13年4月12日)
- 48) 平成13年 3月 1日 広島赤十字原爆病院 土肥博雄先生
広島地区での発表参考資料
- 49) 平成13年 9月18日 九州大学病態修復内科学 権藤久司先生、原田実根先生
第24回日本造血細胞移植学会総会
「ヒトにおける同種造血幹細胞移植の現状と課題」
- 50) 平成13年10月12日 九州大学病態修復内科学 権藤久司先生、原田実根先生
第24回日本造血細胞移植学会総会 再生不良性貧血に関する発表
平成14年研究班班会議
- 51) 会長講演 北海道大学大学院医学研究科 癌制御学医学講座 今村雅寛先生
第24回日本造血細胞移植学会総会 会長講演 (平成13年12月21日)
- 52) 平成14年 8月26日 京都大学医学部附属病院血液腫瘍内科(第1内科) 石川隆之先生
第44回日本臨床血液学会シンポジウム
標準的治療のない血液疾患 () 4 ATL (平成14年9月15日)
- 53) 会長講演 大阪府立母子保健総合医療センター 小児血液・腫瘍科 河敬世先生
第25回日本造血細胞移植学会総会 会長講演 (平成14年10月25日)
- 54) 平成15年1月27日 広島赤十字原爆病院血液内科 土肥博雄先生
広島医学 (広島県医師会の学術雑誌) への総説投稿
- 55) 平成15年1月30日 慶応大学医学部血液内科 岡本真一郎先生
小寺班班会議 (平成15年2月28日)
- 56) 平成15年8月8日 名古屋大学大学院医学系研究科小児科学 小島勢二先生
第65回日本血液学会総会 第45回日本臨床血液学会総会 (平成15年8月30日)
教育講演「再生不良性貧血の治療」
- 57) 平成16年5月12日 国立がんセンター中央病院 薬物療法部 高上洋一先生
ブスルフェクス承認申請時資料として提出
- 58) 平成16年6月25日 京都大学医学部附属病院 血液腫瘍内科 石川隆之先生
第66回日本血液学会総会・第46回日本臨床血液学会総会 (平成16年9月18日)
学会シンポジウム2「成人T細胞性白血病研究の現在と未来：発症機序から治療まで」
成人T細胞性白血病に対する同種移植
- 59) 平成16年7月2日 東海大学医学部専門診療学系小児科学 矢部普正先生
第66回日本血液学会・第46回日本臨床血液学会合同シンポジウム (平成16年9月18日)
学会シンポジウム：血液疾患のEBM/ガイドラインの作成と検証に向けて
「造血細胞移植における幹細胞ソースの選択」
-

60) 平成16年10月18日 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院
2005年 日本血液学会

衛藤徹也先生

利用承認日	著者・論文名等
1) 平成11年 4月 1日	Matsuo K, Hamajima N, Morishima Y, and Harada M. Hospital capacity and post-transplant survival in cases of allogeneic bone marrow transplantation: analysis of data from the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. <i>Bone Marrow Transplant</i> 2000;26:1061-1068.
2) 平成12年 1月28日	Tamaki S, Ichinohe T, Matsuo K, Hamajima N, Hirabayashi N, and Dohy H. Superior survival of the recipients given maternal grafts in blood marrow transplantation from parental donors. <i>Bone Marrow Transplant</i> 2001;28:375-380.
3) 平成13年10月 9日	Kanda Y, Chiba S, Hirai H, Imamura M, Matsuo K, Hamajima N, Fujimori Y, Koderia Y, Karasuno T, Mineishi S, Furukawa T, Maruta A, Hirabayashi N, Sakamaki H, Okamoto S, Iseki T, and Iwato K. Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation from family members other than HLA-identical siblings over the last decade 1991-2000. <i>Blood</i> 2003;102:1541-1547
4) 平成13年12月20日	Kataoka I, Kami M, Mineishi S, Harada M, Imamura M, Matsuo K, Hamajima N, Takahashi S, Koderia Y, Miyawaki S, Hirabayashi N, Okamoto S, Matsumoto N, Miyazaki Y, Morishita Y, Asai O, Maruta A, and Yoshida T. Clinical Impact of Acute Graft-Versus-Host Disease against Leukemias Not in Remission at the Time of Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation from a Related Donor. The Japanese Society for Hematopoietic Cell Transplantation Working Party. <i>Bone Marrow Transplant</i> 2004;34:711-9
5) 平成13年3月6日	Taji H, Ogura M, Morishima Y, Kasai M, Atsuta Y, Hamajima N, Fujii H, Kagami Y, Yoshida T, Chou T, and Ogawa H. Allogeneic versus autologous hematopoietic stem cell transplantation for malignant lymphoma: evidence of allogeneic graft-versus-lymphoma effect from a nationwide survey by the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. (投稿中)
6) 平成14年5月13日	Kanda Y, Izutsu K, Hirai H, Kawa K, Hiraoka A, Atsuta Y, Hamajima N, Sakamaki H, Iseki Y, Koderia Y, Okamoto S, Mitsui H, Iwato K, Hirabayashi N, Furukawa T, Maruta A, and Kasai M. Effect of graft-versus-host disease on the outcome of bone marrow transplantation from an HLA-identical sibling donor using GVHD prophylaxis with cyclosporine A and methotrexate. <i>Leukemia</i> 2004;18:1013-9
7) 平成14年11月12日	Ogawa H, Kawakami M, Ikegame K, Tanimoto M, Kawa K, Takahashi S, Sakamaki H, Karasuno T, Sao H, Koderia Y, Hirabayashi N, Okamoto S, Harada M, Iwato K, and Maruta A. Impact of cytogenetics on outcome of stem cell transplantation for acute myeloid leukemia in first remission: a large-scale retrospective analysis of data from the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. <i>International Journal of Hematology</i> 2004;79:495-500
8) 平成14年6月1日	Yanada M, Emi N, Naoe T, Kato S, Takahashi S, Atsuta Y, Hamajima N, Sakamaki H, Iseki T, Hirabayashi N, Karasuno T, and Chiba S. Allogeneic myeloablative transplantation for elderly patients aged 50 or older. <i>Bone Marrow Transplant</i> 2004;34:29-35
9) 平成14年8月21日	Kunihisa Nakai, Yoshinobu Kanda, Shirou Fukuhara, Hisashi Sakamaki, Shinichiro Okamoto, Yoshihisa Koderia, Ryuji Tanosaki, Satoshi Takahashi, Takafumi Matsushima, Yoshiko Atsuta, Nobuyuki Hamajima, Masaharu Kasai, Shunichi Kato. Value of chemotherapy before allogeneic hematopoietic cell transplantation from an HLA-identical sibling donor for myelodysplastic syndrome. <i>Leukemia</i> (in press)

10) 平成15年10月9日

Yanada M, Emi N, Naoe T, Sakamaki H, Takahashi S, Hirabayashi N, Hiraoka A, Kanda Y, Tanosaki R, Okamoto S, Iwato K, Atsuta Y, Hamajima N, Tanimoto M, Kato S.
Tacrolimus instead of cyclosporine used for prophylaxis against graft-versus-host disease improves outcome after hematopoietic stem cell transplantation from unrelated donors, but not from HLA-identical sibling donors: a nationwide survey conducted in Japan. *Bone Marrow Transplant* 2004;34:331-7

論文リスト

- 1) Nagao T. National registry of bone marrow transplantation in children. *Shonika Shinryo* 1984;47:868-872.
 - 2) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1984). *J Jpn Pediatr Soc* 1985;89:159-63.
 - 3) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1985). *J Jpn Pediatr Soc* 1986;90:155-160.
 - 4) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1986). *Jpn J Pediatr Hematol* 1987;1:29-33.
 - 5) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1987). *Jpn J Pediatr Hematol* 1988;2:42-47
 - 6) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1988). *Jpn J Pediatr Hematol* 1988;2:378-384
 - 7) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1989). *Jpn J Pediatr Hematol* 1990;4:53-61.
 - 8) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1990). *Jpn J Pediatr Hematol* 1991;5:71-80.
 - 9) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1991). *Jpn J Pediatr Hematol* 1992;6:42-51.
 - 10) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1992). *Jpn J Pediatr Hematol* 1993;7:52-61.
 - 11) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1993). *Jpn J Pediatr Hematol* 1994;8:32-42.
 - 12) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1994). *Jpn J Pediatr Hematol* 1994;8:492-504.
 - 13) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1995). *Jpn J Pediatr Hematol* 1996;10:29-41.
 - 14) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1996). *Jpn J Pediatr Hematol* 1997;11:92-104.
 - 15) Bone Marro Transplantation Committee. National registry of bone marrow transplantation in children (1997). *Jpn J Pediatr Hematol* 1998;12:93-105.
 - 16) Okamura J, Takaharu M, Yazaki M, et al. National registry of stem cell transplantation for Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia in children: Results of analyses of 89 cases. *Jpn J Pediatr Hematol* 1999;13:170-177.
 - 17) Kigasawa H, Kato S, Akiyama Y et al. National registry of Hematopoietic Stem-cell Transplantation in children (1998). *Jpn J Pediatr Hematol* 2000;14:317-327.
 - 18) Seiji Kojima, Takaharu Matsuyama, Shunichi Kato, Hisato Kigasawa, Ryoji Kobayashi, Atushi Kikuta, Hisashi Sakamaki, Koichiro Ikuta, Masahiro Tsuchida, Yasutaka Hoshi, Yasuo Morishima, and Yoshihisa Kodera. Outcome of 154 patients with severe aplastic anemia who received transplants from unrelated donors : the Japan Marrow Donor Program. *Blood* 2002;100:799-803
 - 19) 今泉益栄, 矢部普正, 松山孝治, 加藤剛二, 花田良二, 大平睦郎, 河 敬世, 生田孝一郎, 秋山祐一, 気賀沢寿人, 長尾 大, 加藤俊一. 先天性代謝異常症に対する造血細胞移植療法の現状と課題. *日本小児科学会雑誌* 2003;107:53-60
 - 20) Chika Nozaki, Takaharu Matsuyama, Seiji Kojima, et al. Hematopoietic Stem-Cell Transplantation Committee, Japanese Society of Pediatric Hematology. A Comparison of Two Radiation-free Regimens Conditioning for Stem Cell Transplantation For Children with Leukemia. (投稿準備中)
-

日本造血細胞移植学会 全国集計データ管理委員会規約

第1条 本委員会は日本造血細胞移植学会全国集計データ管理委員会（以下データ管理委員会）と称し、日本造血細胞移植学会の事業として実施される造血細胞移植全国集計のデータの管理を行うものとする。

第2条 データ管理委員会の委員長は、理事が担当し、委員および委員長は理事会で選任され、評議員会、総会で承認を得る。

第3条 データ管理委員会の委員構成は、成人領域の委員5名、小児領域の委員5名、その他の領域若干名とする。委員の任命は、地域性などを考慮して日本造血細胞移植学会理事会が行う。ただし、会長が特に任命した者は、会長の任期期間においてこの限りではない。委員の改選は半数ずつ行う。全国データ集計事務局は、データ管理委員会に出席し、その運営に協力する。

第4条 委員の任期は2年とする。再任は妨げない。ただし、引き続いて2期までとする。

第5条 全国集計は、年1回、日本造血細胞移植学会会長の責任で行うものとする。

第6条 全国集計結果の公表は、各年度の学術集会において日本造血細胞移植学会会長が報告する。

第7条 集計されたデータの利用については、別途定める「データ利用に関する細則」に従う。

付則1：この規則は1998年6月26日より有効である。

全国集計データ管理委員会規約は、2004年12月17日、第27回日本造血細胞移植学会総会承認後有効となります。

データ利用に関する細則

第1条 日本造血細胞移植学会の全国調査により収集されたデータの利用にあたっては、以下のようにデータの種類を区分し、その取り扱い手順を定める。

- 1) 全国調査報告書に掲載された集計結果
- 2) 全国調査報告書に掲載されていない集計結果
- 3) 氏名、移植施設を消去した個別データ

なお、氏名または移植施設がついた個別データはいかなる場合であっても事務局外への提供は行わない。

第2条 「全国調査報告書に掲載された集計結果」については、本学会の会員であるにかかわらず誰でも自由に引用することができる。

第3条 「全国調査報告書に掲載されていない集計結果」および「氏名、移植施設を消去した個別データ」の利用を希望する者は、所定の申請書によりデータ管理委員会に利用申請をしなければならない。

第4条 原則として、「氏名、移植施設を消去した個別データ」の提供は、一定以上の登録があった施設の移植医であって、「利用についての遵守事項」を遵守できる申請者に限られる。

第5条 データ管理委員会は利用申請があった場合には速やかに審査を開始しなければならない。利用データが各臨床領域に限る場合には、各領域の委員の審査ですますことができる。委員より承諾について異議が提出された場合には、データ管理委員会の合議により決定する。

第6条 データ利用が認められた場合には、申請者は利用についての遵守事項を守らなければならない。研究発表を行った場合には、その抄録コピー1部または別刷り1部をデータ管理委員会に提出しなければならない。

第7条 データ管理委員会は収集されたデータを有効に活用するために、論文作成のためのワーキンググループを募集して指名することができる。指名されたワーキンググループは結成後1年以内に論文を投稿しなければならない。

付則1：この細則は1998年6月26日より有効である。